

教師海外研修概要



JICA の開発教育支援

グローバル化が進む現代では、地球規模で多様な課題を抱えています。

貧困・環境・人権などの課題を抱える地球が、より持続可能な方向へシフトするにはどうしたらいいのでしょうか。

持続可能な開発のための教育(ESD)にも挙げられているように、その解決に向けての鍵の1つは「教育」にあると考えられています。

相互依存が深まる世界において、開発途上国が直面する多様な課題を自分たち自身の問題として考え、その解決のために自ら行動に移すことのできる人間を育成するために、開発教育・国際理解教育への関心はますます高まるばかりです。

JICA 関西では、開発途上国における技術協力事業、資金協力事業で培った経験、人材やネットワークを活用し、国際協力出前講座、JICA 関西訪問、教師海外研修、開発教育指導者研修等の開発教育支援事業を関西地域で広く実施し、地域での開発教育・国際理解教育を支援しています。教師海外研修は、その事業の一つです。



教師海外研修とは……

I. 研修目的

開発教育・国際理解教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの教員に、JICA が協力を行っている開発途上国での10日程度の海外研修に、参加していただきます。

帰国後は、海外研修で得た経験を、参加した先生自身が自分の教室で子ども達に伝えています。さらに、その経験をそれぞれの地域において、広く発信していただき、開発教育・国際理解教育の実践者として活躍いただくこともねらいとしています。



Ⅱ. 教師海外研修の流れ

※（ ）内の日程は 2016 年度の日程です。2017 年度以降の日程は H P をご確認ください。

募集・選考

- 募集（4/1-5/9）
- 書類選考（5 月中旬）
- 選考結果通知（5 月下旬）
- 面接選考（6/5）
- 選考結果通知（6 月下旬）



国内事前研修

- 第一次事前研修（6/12）
- 第二次事前研修（7/2-3 1 泊 2 日）



開発教育指導者研修等に自主的に参加し教育力向上！

※ JICA 関西でも、関西各地で以下のようなセミナーを実施していますので、国内事前研修に加えて、参加を推奨しています。

- 国際教育教材体験フェア in 滋賀（6/19）
- 開発教育入門セミナー（6/26）
- 開発教育・国際教育セミナー（8/4）
- 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー（8/8、9）



海外研修

- ネパール（8/7-8/17）（8/25）までに海外研修報告書提出



国内事後研修

- 事後研修（8/28）



勤務校における授業実践

- 9 月 -12 月



授業実践報告書提出

- （12/12）締切



教師海外研修報告会

- （2/5）

ネパールで 見たこと 感じたこと



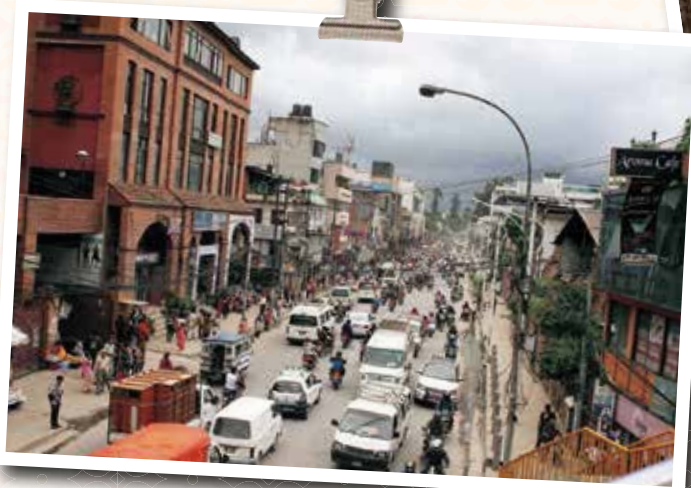
▲ 窓まわりがきめ細かな装飾で美しいネパール建築の住宅が被災していました。亀裂が入っている建物も多く、伝統を残した形での修復・復興を望みます。【吉田】



▲ 犬、犬、犬

狂犬病に注意と聞いて警戒しているのに、そこら中にいて、道を歩くのにびくびくする。これも帰る頃には慣れる。【金田】

▶ 町中に神様がいて、人々が日々お供えをしたりティカをつけたりする風習が残っていること。【横井】



◀ 信号は当たり前じゃないし、必須ではないのだと気付く。でもそこにはちゃんと譲り合いがあって成り立っている。バイクはHONDA・HERO!。【三宅】



▲ パトレケット村の人々は、牛の糞を利用してガスを作り、料理の際に活用していた。【水谷】



▲ パシュパティナート。火葬場。人はなぜ生きて、そして死んでいくのか。人の生死も、自然の一部であり、その中に文化があるんだと感じた。【仲井】

▶ 子どもたちとの音楽交流。ロックは国境を超えると実感。子どもたちの素直な反応に感動。【嶋田】



◀ ホームステイ先で、お好み焼きを作りました。日本の食べ物を食べるのは初めてということでした。おいしいと言ってもらいました。

【福井】



▶ 震災後、子ども達が学習している仮設教室。雨や風通し、気温、暗さなど色々なことが心配になったが、明るい笑顔で私たちを迎えてくれた子ども達は、学習にも前向きな姿勢で取り組んでいた。子ども達の生活環境が一日も早く改善されることを強く願う。【挾間】



研修国概要



ネパール連邦民主共和国

(Federal Democratic Republic of Nepal)



首 都：カトマンズ

面 積：14.7 万平方キロメートル（北海道の約 1.8 倍）

人 口：2,649 万人（2011 年、人口調査）

民 族：パルパテ・ヒンドゥー、マガル、タルー、タマン、ネワール等

言 語：ネパール語

宗 教：ヒンドゥー教徒（81.3%）、仏教徒（9.0%）、イスラム教徒（4.4%）他

政 体：連邦民主共和制

主要産業：農林業、貿易・卸売り業、交通・通信業

GDP名目：約 212.9 億ドル（2015/2016 年度、ネパール中央統計局）

一人当たり GDP：約 752 ドル（2015/2016 年度、ネパール中央統計局）

識 字 率：65.9%（2011 年、国勢調査）

通 貨：ネパール・ルピー

日本の援助実績：（1）有償資金協力（2015 年度まで、E/N ベース）1,050.26 億円

（2）無償資金協力（2015 年度まで、E/N ベース）2,039.05 億円

（3）技術協力実績（2014 年度まで、JICA 経費実績ベース）745.23 億円

主要援助国（2015/2016 年度）：（1）インド

（2）日本

（3）英国

（4）スイス

（5）中国

在留邦人数：1,088 人（平成 27 年 10 月 1 日現在、海外在留邦人数調査統計）

在日ネパール人数：54,775 人（2016 年 4 月 6 日公表、法務省在留外国人統計）

（2016 年 8 月 29 日付外務省ホームページより）

国内研修



第一次事前研修

(1)日時:2016年6月12日(日)10:00-16:30

(2)目的:①JICA事業についての理解を深める。

②教師海外研修全体の趣旨を理解し、目的意識を明確化する。

③海外研修の概要を知り、研修全体の理解を深める。

④開発教育に関する知見を深める。

⑤派遣国の知見を深める。

(3)プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-12:00	オリエンテーション ●あいさつ ●関係者紹介、参加者自己紹介 ●JICA 事業概要説明 ●教師海外研修の目的について	JICA 関西
12:00-13:00	休憩	
13:00-15:00	ワークショップ① ●開発教育とは？ ●教育者としてこの研修に参加することの意識を共有する ●ベーシックな手法を体験	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
15:00-16:00	ネパールについて学ぶ① ●JICA ボランティア活動について ●一般の協力隊経験後、2015 年の震災復興支援として地域防災力向上のための活動を行った経験やネパールの文化社会について学び、JICA ボランティア事業の理解促進を図る	青年海外協力隊帰国隊員※ (ネパール：コミュニティ開発) 安東 千紘 氏
16:00-16:30	事務連絡等	JICA 関西

※アジア・アフリカ・中南米・大洋州・中東の人々のために、自分の持っている技術や経験を生かしてみたい。そうした強い意志を持っている方を派遣し、支援するのが JICA ボランティア（青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニアボランティア）事業です。現地の人々と同じ言葉を話し、ともに生活・協働しながら開発途上国の国づくりのために協力しています。

参加者の声

- ◇ 研修に対する心構えが出来ました。とてもやる気と意義を感じることができました。
- ◇ この研修の目的、主旨を改めて理解することができました。
- ◇ 今回の参加者と顔合わせ、みなさんの気持ちを共有して、いよいよ始まるという前向きな気持ちになれました。
- ◇ 開発教育の真髄を知ることができました。表面上で終わらず、深く掘り下げられる授業にしたいです。
- ◇ 開発教育について学べばもやもやすることが多かったのだが、もやもやすることは大事で、それを自分の中で整理していくことが必要だと分かった。
- ◇ とても考えさせられました。貧困問題から開発教育について学ばせて頂きました。自分が感じたことを追体験できるような授業を、というヒントをいただいたので少しスッキリしました。モヤモヤして帰ってきたいと思います。
- ◇ 開発教育とは何か、「自分を知ること」「抑圧からの解放」心に残った言葉です。本当にありがとうございました。
- ◇ 色々なお話から、ネパールという国を知ることができました。テレビでは知りえないところを教えてくださいました。
- ◇ 基本情報から実際の活動の様子まで大変興味深く拝聴させていただきました。
- ◇ お話をうかがって自分の中で事前に準備しておかなければならないことが少しずつわかってきました。安東さんのバイタリティに勇気をいただきました。





第二次事前研修

(1)日時:2016年7月2日(土)10:00 - 3日(日)17:00

(2)目的:①派遣国に関する知見を深める。

②開発教育教材・手法について学ぶ。

③参加者自身の研修テーマを設定し、実践授業をイメージする。

④参加教員同士の研修目的の共有を図り、事前準備について明確にする。

⑤海外研修までの準備(役割分担・渡航手続き等)を行う。

(3)プログラム内容

[第1日目:7月2日]

時間	内容	講師
10:00-10:45	海外研修日程について	JICA 関西
10:45-12:15	ネパールについて学ぶ② ●ネパールが抱える課題について	とよなか国際交流協会 山本 愛 氏
12:15-13:00	休憩	
13:00-15:00	ネパールについて学ぶ③ ●草の根の国際協力活動について	プラス・アーツ 百田 真治 氏 宮田 純子 氏
15:00-16:00	ネパールについて学ぶ④ ●モノづくりの国際協力活動について	マザーハウス 大阪店 店長 濱口 香織 氏
16:00-16:30	中間ふりかえり	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
16:30-18:00	2015 年度参加者による研修報告	2015年度ブラジルコース参加者
18:00-19:00	休憩	
19:00-21:00	グループワーク ●役割分担 ●ネパールでの防災教育実践について	《アドバイザー》 川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏

[第2日目:7月3日]

時間	内容	講師
10:00-12:30	ワークショップ②	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
12:30-13:30	休憩	
13:30-16:00	ワークショップ③	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
16:00-16:30	渡航説明 (旅程の案内、ビザの申請等)	国際サービスエージェンシー
16:30-17:00	事務連絡	JICA 関西





事後研修

(1)日時:2016年8月28日(日)10:00 - 17:00

(2)目的:①海外研修で得られた教材を共有する。

②海外研修での経験を教材化し、授業で実践するためのカリキュラム作成。

③帰国後の教師海外研修ネットワークへの参加促進。

(3)プログラム内容

時間	内容	講師
10:00-11:00	資料整理・教材共有	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
11:00-12:30	実践授業について	京都市立白河総合支援学校 教諭 大槻 一彦 氏 (ネパール：理数科教師)
12:30-13:30	休憩	
13:30-16:30	実践授業計画作成	川崎医療福祉大学 山中 信幸 氏
16:30-17:00	事務連絡	JICA 関西

参加者の声

- ◇三人組になり、お互いに感想や質問を伝え合うことで、新たな発見や気づきをえることができました。
- ◇違う視点で研修を振り返り、学びを深めることができました。
- ◇教材を使うポイントを効果的に伝えていただけて、押さえるべき点を確認できました。
- ◇写真の活用法、授業の提案が、大変参考になりました。ワークショップの資料がとても良かったです。
- ◇改めて、先生方の熱意を感じました。今日のアドバイスをもとに再度練りをしたいと思います。



海外研修

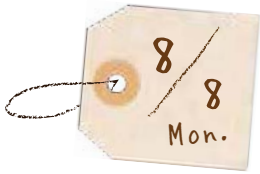


海外研修日程 — ネパール —

日時	プログラム	滞在先
8/7 (日)	関西国際空港発	機内泊
8/8 (月)	関西空港→バンコク	カトマンズ
	バンコク→カトマンズ	
	到着ブリーフィング	
	アサン市場視察	
8/9 (火)	カトマンズ盆地における地震リスクアセスメントプロジェクト事務所訪問・事業ブリーフィング	カトマンズ
	ボダナート視察	
	シャプラニール＝市民による海外協力の会事務所訪問・事業ブリーフィング	
8/10 (水)	青年海外協力隊員の活動視察	カトマンズ
	シニアボランティアの活動視察	
8/11 (木)	青年海外協力隊員の活動視察	カブレパランチョーク郡
	参加者による防災教育の実施	
	現職隊員との意見交換・交流	
8/12 (金)	学校での防災教育視察	カブレパランチョーク郡
	丘陵地における自然環境に配慮した循環型農業と景観保護を通じた生計向上プロジェクト活動視察（実施団体：ラブグリーン・ジャパン）	
	青年海外協力隊員との交流	
	村落ホームステイ	
8/13 (土)	村落ホームステイ	カブレパランチョーク郡
8/14 (日)	カトマンズへ移動	カトマンズ
	Children's Hospital for Eye ENT and Rehabilitation Services 訪問	
8/15 (月)	教育局訪問	カトマンズ
	小学校運営改善支援プロジェクト (SISM2) 事業ブリーフィング	
	教育局職員との意見交換	
	パシュパティナート視察	
	帰国前の海外研修報告	
8/16 (火)	カトマンズ→バンコク	機内泊
	バンコク→関西空港	
8/17 (水)	関西国際空港到着	



訪問先所感



▼ JICAネパール事務所到着ブリーフィング

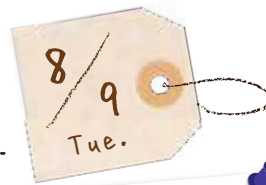
JICA ネパール事務所の次長から、ネパールは「電力分野」と「観光分野」の2つの点で、開発していくためのポテンシャル（潜在的な能力、可能性として持つ力）が高いという話をうかがった。現状、国外への出稼ぎが多いが、この国の中で家族と一緒に暮らしてやっていく力をつけるためにはどうすればいいのだろうか、地域による経済格差をどのように解消していけばいいのか、これから始まる研修の視点を示唆頂いた。【吉田】

▼ プロジェクト事務所

カトマンズ盆地における地震リスクアセスメントプロジェクト
事務所訪問・事業ブリーフィング

JICA という組織はコーディネーター的な役割を担っていることを知りました。そして、専門的なコンサルタントと現地をつないでいることを知りました。

また、ネパールは定期的に地震が起こる国なのに「防災意識」が高まらないのは、「記憶」にたよってばかりで、実際に「記録」が残されないからだ、という話も印象的でした。【横井】

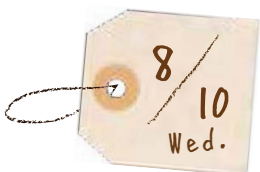


▼ シャプラニール ネパール事務所

シャプラニール=市民による海外協力の会
事務所訪問・日本 NGO連携無償案件「カトマンズ盆地における地震被害軽減を目指した研修・キャンペーン事業」ブリーフィング



特に印象に残っているのが、女性の活躍の場を提供しているところだった。壁に穴を開ける作業でさえ、女性であることだけで、できることが抑制されたりしている事実を知った。地震被害から指導者を育てるということも大切だと感じた。地震に関する DVD をいただいたので、学校で活用したいと思った。【仲井】



▼ 隊員活動先(ラリトプール郡農業事務所)

【JOCV】 青年海外協力隊員の活動視察

ラブシーキャンディーを作っているラタさん一家に出会い、その製造工程を見学することができた。あたたかい笑顔で私たちを迎えてくださり、おいしいラブシーキャンディー、ミルクティー、梨をいただいた。

家族でキャンディーを作っておられるが、ラブシーは近所の人から買っていることを知り、生産活動を通して地域が活性化していることを嬉しく思った。また、その背景には、青年海外協力隊員の川喜多さんが築き上げたご家族との信頼関係があった。このラブシーキャンディーが、ネパールの代表的なお土産となる日が少しずつ近づいてきているように感じた。【挟間】

▼ シニアボランティア活動先(ネパール商工会議所農業企業センター)

【SV】シニアボランティアの活動視察

ここでは、途上国で事業目標を達成することの難しさを学んだ。ネパールでの一村一品事業は、理念が先に行って、現場がついていけない感じを受けた。当然、継続していくためには、一時的な感情に訴える製品ではなく、観光客や海外のバイヤーが「お金を出してでも欲しい」と思わせるブランド化が出来なければいけない。その大きな車輪をどうしたら進められるか、最初の躓きを見ているようで、僕がネパール開発全体に感じているもどかしさを凝縮したような時間であった。【三宅】



▼ 青年海外協力隊+参加者による学校での防災教育

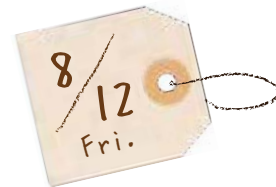


青年海外協力隊の方々のパワーに圧倒されました。現地の学校の先生と笑顔で楽しそうに話されていて、熱意が人を動かすことを感じました。地元の先生方も熱心に話を聞いておられ、子どもに対する愛情を感じました。

何よりも、教室へ行かせてもらった時の子ども達の嬉しそうな顔は忘れることができません。【福井】

▼ 学校での防災教育見学

現地の教員が現地の生徒に伝える伝え方はそれぞれで、違いが見れてよかった。また、現地の生徒と一緒に防災体操と歌をうたい、生徒たちが楽しそうにやっている姿に感動した。避難訓練終了後には、ギターにあわせてゲリラライブが行われ、ネパールの子供たちは音楽が大好きなんだと実感した。防災への意識につながったと信じている。【金田】





▼ 丘陵地における自然環境に配慮した循環型農業と景観保護を通じた生計向上プロジェクト 実施団体ラブグリーン・ジャパン 活動視察

NGO と JICA の違いが改めてわかりました。JICA は国の予算からなる国の機関で、「国益」という視点が必要になります。草の根的に活動する際にそれが障害になる、という考え方があることがわかりました。また、「ネパール人はチャレンジすることが苦手」という言葉も印象的でした。誰にでも言えることですが、伝統的なやり方が非効率的だとわかっていても簡単には変えられないのだとわかりました。そこで変えるためには信頼関係が必要になるのだとわかりました。【横井】

▼ 青年海外協力隊員との交流

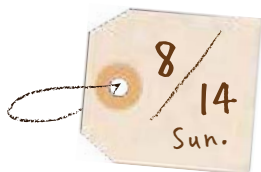
パネパで青年海外協力隊員やシニアボランティアの方に催して頂いたネパールの民族楽器の演奏会は、音楽のもつ力を感じ取ることができた。「癒やし」の力、「活力」となる力。そしてその場を「一つにつなぐ」力。民族楽器サーランギの音色が帰国後の今でも頭の中で流れています。【吉田】



▼ 村落ホームステイ

どんな2泊3日になるのだろうとずっとドキドキしていた私を、ホストファミリーはあたたかく迎えてくださった。簡単なネパール語しか話せなかったが、英語やジャスチャーを用いながら、一緒に紙風船や折り紙で遊んだり、ごはんを作ったり、とても幸せな時間を過ごすことができた。初めての体験に驚いたり、感動したりしながら、あたたかくやさしい家族と過ごせたこと、現地の文化を実際に体験できたことは、私にとって大きな財産となった。【挟間】





▼ CHEERS病院訪問(視覚などの障がいを持つ子供への治療・リハビリを行う施設)

CHEERS 病院視察では、病院経営に関して興味を持った。CHEERS が行っている子供たちへのトレーニングの活動や理念は素晴らしく、永続的に続けてもらいたい。しかし、そのためには病院が続いていく必要があり、病院の安定経営の重要性を感じている。立派な建物や国産の医薬品やインドとの関係など、様々な事情が複雑にあるのだろうが、今回の視察だけでは表層しか分からず、もっと勉強したいと思った。【三宅】

▼ 技術協力プロジェクト

教育局訪問「小学校運営改善支援プロジェクト(SISM2)」事業ブリーフィング

反省として、制度変更についてやネパールの小学校、中学校、高校の制度については日本でも先に調べておくことができた。訪問団体についてはみなで勉強会をして知識を深められたが、ネパールの学校についてや宗教、インフラについても勉強会を行ってれば、教育局などでより高度な、具体的な質問や SISM についての質問に時間を費やせたかもしれない。次年度への申し送り事項にあげたい。【水谷】



▼ JICAネパール事務所 帰国前の海外研修報告

メンバー一人一人が感じたことを発表しあいました。その中で、ある先生がおっしゃった「折り紙を持って行って折ってあげて渡しても大丈夫。折り紙の折り方を教えてみんなで楽しめるようにすることが大切。」という意見が、今回の研修のすべてを言い表しているような気がしました。【福井】





同行者より

海外研修に同行して

独立行政法人国際協力機構
関西国際センター（JICA 関西）
国際協力推進員 和歌山担当 足立 朋実



ネパールは 4 つの世界遺産と豊かな自然を持つ、多くの旅行者憧れの国。しかし、2015 年 4 月 25 日に大地震が発生し、大きな被害を受けました。地震直後は多くのニュースが流れてきましたが、しばらくたつと全く報道に上らなくなり、地震から 1 年後の 2016 年春はどれだけ復興が進んでいるのかまったくわからない状態でした。そんなネパールの現状を知りたいと関西一円の学校の先生方が 2016 年教師海外研修に応募してくださり、その中の 9 人の先生と 2016 年 8 月 7 日教師海外研修に出発しました。

ネパール到着直後、地震の被災地と思えない首都・カトマンズのエネルギー感に参加者全員圧倒されました。しかし、その後の視察で見えてくるたくさんの地震の傷跡……。そんな中、カトマンズや付近の街を回って JICA や NGO の活動を視察させていただきました。研修に参加くださったのは小・中・高・支援学校の先生。校種も専門の教科も様々で、国際協力に携わった経験、研修参加目的もみなさん違います。そんな十人十色の先生方と様々な団体を見学させていただくと、同じものを見ていても、夜の振り返りでは違う事を感じている事がわかり、他の考えを知る事で新しい考え方が身に付いていく様でした。

今回、参加教員の方には日々の研修に加えて大きな課題が 2 つ。現地小学校での先生・生徒に対するワークショップ実施と 2 日間の村でのホームステイ。視察で疲れた後、毎晩ワークショップのために話合いや練習を熱心に行ってくださいました。体力的にも大変だったと思いますが、どうなるかわからないという精神的な負担も大きかったと思います。しかし、結果は大成功！ダンスでの防災教育は生徒たちに大ウケでした。参加教員の方に外から見ただけではなく、実際に国際協力に参加するという貴重な体験をしていただけたのはとてもよかったと思います。また、2 日間の村でのホームステイでは、受入れ家族は英語も解らないということで、どうやって 2 日間を過ごせばいいのかと家に行く前は全員不安顔でした。しかし、翌日朝の皆さんに会うと、前日とは一転、満足した満面の笑顔！コミュニケーションに必要なのは言葉ではなく、相手と交流しようという意思だという事を身をもって実感していただけた。また、物がなくても豊かに暮らす家族の中に身を置くことで、豊かさとは何かという事も考えていただけた様です。

今後の人生を変えるきっかけになるような内容の濃い 10 日間になったと思います。

本研修はたくさんの方の協力のおかげで実施することができました。現地で多大な協力をいただいた JICA ネパール事務所の皆様や NGO の皆様、事前研修で経験に基づいた実践的な学びの場を提供くださった講師の皆様、そして何よりも、忙しい中この研修への参加を承認し、実践授業実施の場などを提供くださった参加教員所属校の皆様など多くの方のご支援のおかげで研修を無事終える事ができました。今研修にご協力くださった皆様に心より感謝いたします。

